

まちなかキャンパス長岡平成 30 年度後期市民プロデュース講座

ほくえつせつ ぶ 北越雪譜の魅力

講師 新潟県民俗学会理事 高橋 実

『北越雪譜』は、越後の雪の古典。この本の出版で日本人の雪のイメージが大きく変わった。江戸後期における越後魚沼の雪国の生活を活写した書籍。初編 3 巻、二編 4 巻の計 2 編 7 巻。著者は現在の新潟県南魚沼市塩沢で縮仲買商・質屋を営んだ鈴木牧之（京山人百樹（山東京山）増修、京水百鶴（岩瀬京水）画）。雪の結晶のスケッチ（『雪華図説』からの引用）から雪国の風俗・暮らし・方言・産業・奇譚まで雪国の諸相が、豊富な挿絵も交えて多角的かつ詳細に記されており、雪国百科事典ともいえるべき資料的価値を持つ。1837 年（天保 8 年）に江戸で出版されると当時のベストセラーとなった。

日時・内容

第 1 回 雪国の風土と文化

11 月 4 日（日） 午後 2 時～3 時半

日本人にとって雪は、「雪月花」で代表されるように、ふわりと降ってその美しさを鑑賞するものでした。しかし、日本海側に降る雪は、2～3m も積雪するものであり、人々のくらしの大きな障害となっています。このような「雪」とは何なのか、概念を説明します。また、雪に関する経験をみんなで話し合しましょう。

第 2 回 北越雪譜の成立

11 月 11 日（日） 午後 2 時～3 時半

新潟県で最も雪が多いといわれる、魚沼地方に生まれた作者・鈴木牧之は、何とかしてこの雪国のくらしを薄雪の太平洋側の人に知らせようと、本の出版を思いつきました。しかし、それには江戸の人の知恵を借りる必要がありました。作者が北越雪譜を書いた経緯をたどり、その歴史を探りましょう。

第 3 回 北越雪譜を読む

11 月 18 日（日） 午後 2 時～3 時半

北越雪譜は、いくつかのお話が集約されており、誰でも読めるものです。興味のある何編かを選び、みんなで読んでみましょう。講師のおすすめの話も紹介します。



↑北越雪譜にある「すかりを履いて雪中を歩く図」

会場 まちなかキャンパス長岡

受講料 600 円

定員 20 名

申込 10 月 10 日（水）～

まちなかキャンパス長岡に電話またはホームページ電子申請にて

申込先 長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 4F「まちなかキャンパス長岡」

電話 0258-39-3300 HP <http://www.machicam.jp/>

講師プロフィール

昭和 15 年 新潟県刈羽郡小国町生まれ。新潟県立長岡高校、新潟大学教育学部卒業。卒業論文『北越雪譜の研究』。北越雪譜を卒業論文に選んだ主人公を描いた小説「雪残る村」が第 52 回芥川賞候補となる。38 年間新潟県内公立学校教師。平成 13 年退職。

[著書]

『校註北越雪譜』（共著） 1960 野島出版 『北越雪譜の思想』 1981 越書房
『鈴木牧之全集』（共著） 1984 中央公論社 『座右の鈴木牧之』 2003 野島出版